

3月27日(日)

し 西川

平標山

M. 菅沼 (佐藤晶) 亀嶋

末崎 田村(高)

天候 雪

知イテ改正により、10:45発の電車かみくまりしかたなく、新幹線を使う。

朝 6:00 のバスに乗りこむ前に上空にはほかほかの青空が認められる。

「頂上に着く頃には、雲一つみくまりいりかもし」という声に期待しながらバスに乗る。

しばらくして、外を思ふと横なぐりの雪にあおてこヤッケを着こむ。

二俣のバスを降り、学校前にて準備を整えていざ出発。

当初の予定では、二俣 - 平標山 - 仙ノ岩山 - シッケイ - 土樽 でおたのたか。

地玉空川を右へ折れ、早らな道をしばらく行き、ヤブの狭い沢へ入る。

ここからが、自分としては、ルートファインディングが問われ、登り初めの沢であった。

3月の下旬としては、おもしろく、雪が深くしかも重い雪で、苦しんだ。

と山でもなんじか 高度さがせいぜいくと  
しだいに 風と雪が増してくる。

自分としては、やっぱりの思いで 松手山から 平標山  
への尾根に着く。

ここから ヤカイ沢から 火灯峠 にてようとしたが  
尾根から下を見ると、かなりの斜度があまよう  
に思えてなうなり。

天候も悪いので、登って来た道を、戻す事にする。

ここもまた、ヤアが強く、自分としては、全々  
思いどおりに、スベれはしなかった。

ベテランの人に言われると、こんなものは、まだ、

ヤア スキーでは、言えない、そうであるが

自分としては、苦しい スキー であった。

沢をぬけると、天候もかなり良くなり、やはり

山の上のほうのほう、かなり違うなという事を知ら

された山行であった。

